

＊新病院イメージ図

新病院基本設計に関する説明会

1 現病院の概要

三田市民病院		済生会兵庫県病院	
			
概要	三田市民病院は、平成7年に現在の場所（三田市けやき台）に開院して以来、救急医療を中心とする急性期医療に重点を置き、「市内の急性期医療さいごの砦」として、三田市地域（以下「三田地域」という。）の市民の命を守る役割を担っています。	概要	社会福祉法人恩賜財団済生会兵庫県病院（以下「済生会兵庫県病院」という。）は、平成3年に現在の場所（神戸市北区藤原台）に開院して以来、救急医療、小児医療、周産期医療への取り組みに重点を置き、神戸市北区北部地域（以下「北神地域」という。）の中核病院として地域の住民の命を守る役割を担うとともに、神戸市内唯一の地域周産期母子医療センターを持つ医療機関として、神戸市域を超え広域で重要な役割を果たしてきました。
病床数	300床（うちHCU7床）	病床数	268床（うちNICU9床、地域包括ケア病棟46床）
診療科数	20診療科	診療科数	22診療科
入院※患者数	76,501人	入院※患者数	75,228人
外来※患者数	144,448人	外来※患者数	129,567人

※2024年度　延べ患者数

2 現病院の課題

① 施設設備の老朽化

- 三田市民病院は平成7年に建設されてから**約31年**が経過
- 済生会兵庫県病院は平成3年に建設されてから**約35年**が経過

今後も安定して急性期医療を提供していくために

両病院ともに大規模改修又は建替えを要する時期に差し掛かっています

② 医師の確保

新専門医制度への対応

専門医を目指す若手医師の研修は、数多くの症例、経験豊富な指導医からの指導を受けることができる一定以上の機能・規模を有する基幹病院でなければ不可能であり、現在の医療機能のままで若手医師を確保することは困難な状況となっています。

医師の働き方改革への対応

「働き方改革関連法」により、全ての勤務医に対して労働時間の短縮の取り組み（当直回数の抑制、当直翌日の休暇による診療体制の縮小など）を実施する中で、 救急医療を含む急性期医療を維持するためには医師の増員が不可欠となりますが、高い診療機能や教育研修機能をもつ魅力のある病院でなければ、若手医師から選ばれず増員が困難となり、結果として急性期医療を担えなくなります。

3 新病院の必要性

現病院が抱えている課題のとおり、医療を取り巻く環境は大きく変化しており、今後、両病院が単独で急性期医療を維持していくことは困難な状況となっています。そのため、「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」からの報告も踏まえて、将来にわたり地域医療を安定的に確保するには、一定規模以上の基幹病院として再編統合し、安定した医療提供体制を構築する必要があることから、新病院を整備し、三田・北神地域の急性期医療の充実を図ることとしました。

三田市民病院



～特徴・方針・理念～

- 地域中核病院
- 断らない救急
- 良質な高度医療の提供

再編統合

済生会兵庫県病院



～特徴・方針・理念～

- 北神地域の中核病院
- 地域周産期母子医療センター
- 高度・専門医療の提供

新病院整備

統合による効果

- ★ 医師・医療スタッフの充実
- ★ 診療機能の集約と強化
- ★ 医療の質と安全性の向上
- ★ 救急医療の充実



新病院の役割

- ◆ 北神・三田の急性期医療の中核
- ◆ 高度・専門医療の充実
- ◆ 周産期・小児医療の充実
- ◆ 救急医療体制の強化

地域の皆さまの命と健康を、未来へしっかりつなぎます

4 これまでの取組経過

検討委員会 （R3～R4）	北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会においては、北神・三田地域の現状と課題及び将来的な医療需要を踏まえた急性期医療の確保方策について専門的な見地及び市民の立場から検討を行い、急性期医療を将来にわたり提供していくためには「再編統合」が最も望ましく、設置場所は両病院の中間地点が望ましいと報告書を受けたもの
基本方針 （R4.6）	三田・北神地域の急性期医療を確保するための役割分担、病床規模、整備場所などの基本的な方向性を示したもの
基本構想 （R4.12）	基本方針に基づき、三田・北神地域の急性期医療を確保するための役割分担、財政負担、整備候補地や新病院に関する基本的な事項などを示したもの
基本計画 （R7.2）	基本構想を踏まえ、新病院の詳細な医療機能（診療科数、外来・入院・救急・手術・検査等）、病床数、具体的な建設地、整備費、現病院の跡地活用などについて基本的な計画を示したもの
基本設計 （R8.4）	基本計画に基づき、新病院の位置や敷地利用、施設計画などについて示したもの

5 新病院の基本方針／設計のコンセプト

新病院の基本方針

- すべてのいのちに寄り添い、地域に笑顔と安心を届けます
- 地域とともに高度な医療を提供できる病院づくりを推進します

設計のコンセプト

周辺地域と共生し、安全・安心のランドマークとして、親しまれる病院

1 強固な急性期医療の拠点づくり

- ●集中治療室の整備
- ●ワンフロアで繋ぐ小児・周産期医療
- ●人材を育てる教育研修環境の整備

2 すべての人が利用しやすく、働きやすい施設づくり

- ● 誰でも分かりやすいフロア構成
- ● ロボットを活用した搬送計画
- ● スタッフ動線を効率化する部門配置

3 災害に強い病院づくり

- ● 地震に強い免震構造の採用
- ● 自家発電設備等のライフライン確保
- ● 臨時ヘリポートの設置

4 感染症に備えた安心の施設づくり

- ● 感染症に備えた全室個室
- ● 感染エリアの隔離が可能な設計

5 里山の景観に調和する病院づくり

- ● 既存の里山を残し、周辺環境を保全
- ● 低層化した病棟

6 環境に配慮した持続性の高い施設づくり

- ● 省エネルギー化による環境負荷軽減
- ● 施設の生涯にわたる総費用の最適化

6 計画概要

敷地概要・都市計画等

所在地	神戸市北区長尾町宅原3850番地 他
敷地面積	72, 400㎡
区域区分	市街化調整区域、一部農用地区域
建蔽率	60%
容積率	100%
前面道路	東側：市道長尾宅原10号線 西側：市道北神中央線 北側：市道宅原線

建物概要

主要用途	病院
建築面積	10,710㎡
延床面積	40,790㎡
高さ	29m
階数	地上6階
構造	鉄骨造（免震）
駐車場	1,260台
駐輪場	125台
附属建物	院内保育所　他

病院概要

診療科数	35診療科
病床数	合計425床 ● 一般病床　400床 ● 集中治療室　25床（ICU：6床、HCU：10床、NICU：9床）
手術室	10室

7 配置・動線計画



★Point1
森林保全による環境配慮

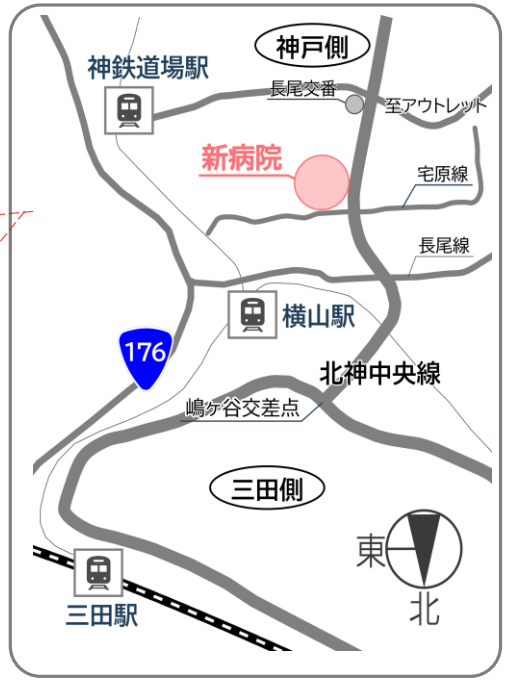
★Point2
臨時ヘリポートの確保

★Point3
周辺になじむ病院本棟

★Point4
新病院の主出入口

★Point5
救急車入口

★Point6
安心して移動できる来院者動線



■ 南北に長い敷地形状を活かし、南側から
- 里山を保全した森林
- 職員駐車場
- 院内保育所
- 病院本棟
- 来院者駐車場

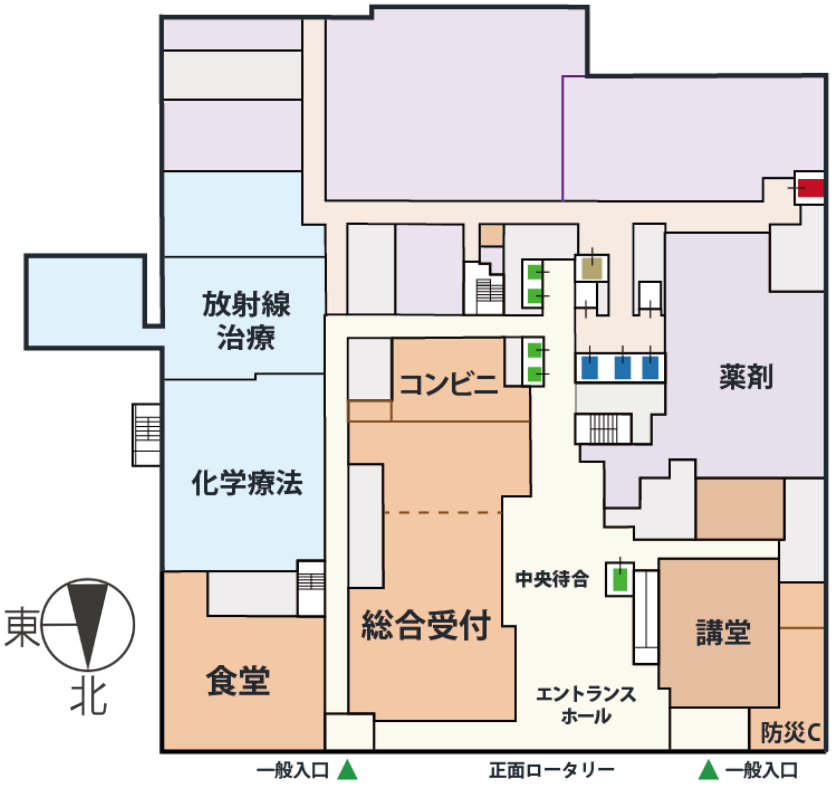
を配置する計画とします。

■ **6階建て**の病院本棟を敷地中央に配置し、周囲と調和した景観を創出します。

8 施設計画

1階

総合受付や中央待合のあるエントランスホールは、温かみのある空間でみなさんをお出迎えします。



正面エントランス（イメージ）



8-2 施設計画

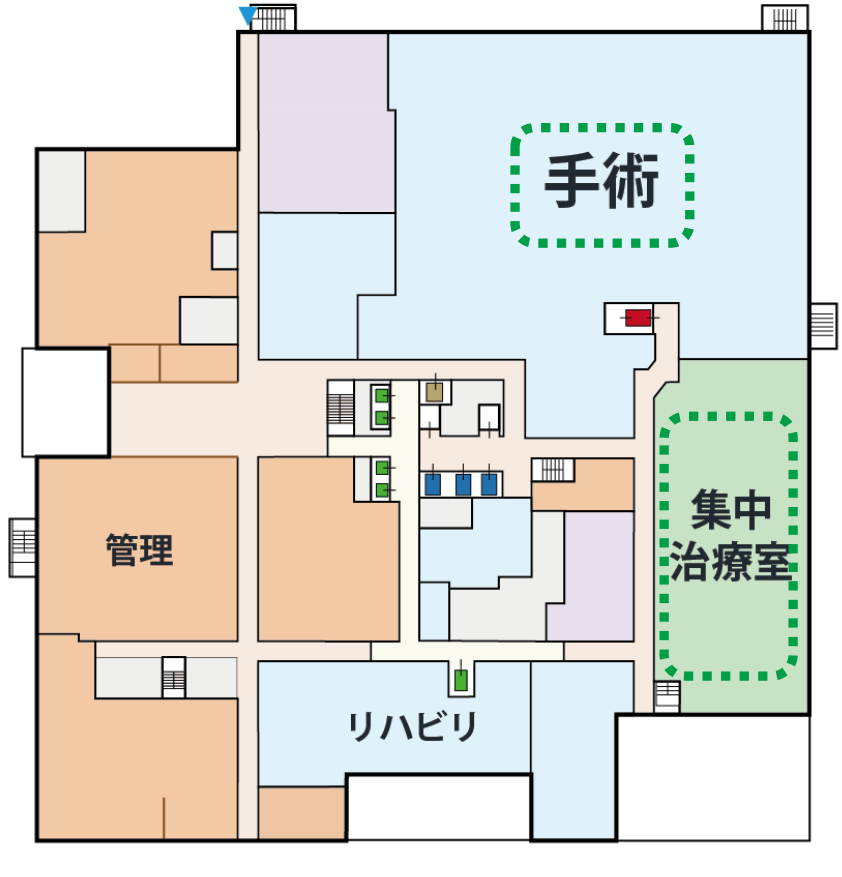
2階

外来をワンフロアに集約し、回廊型のループ動線を採用。
利用者が効率的に受診することができます。



3階

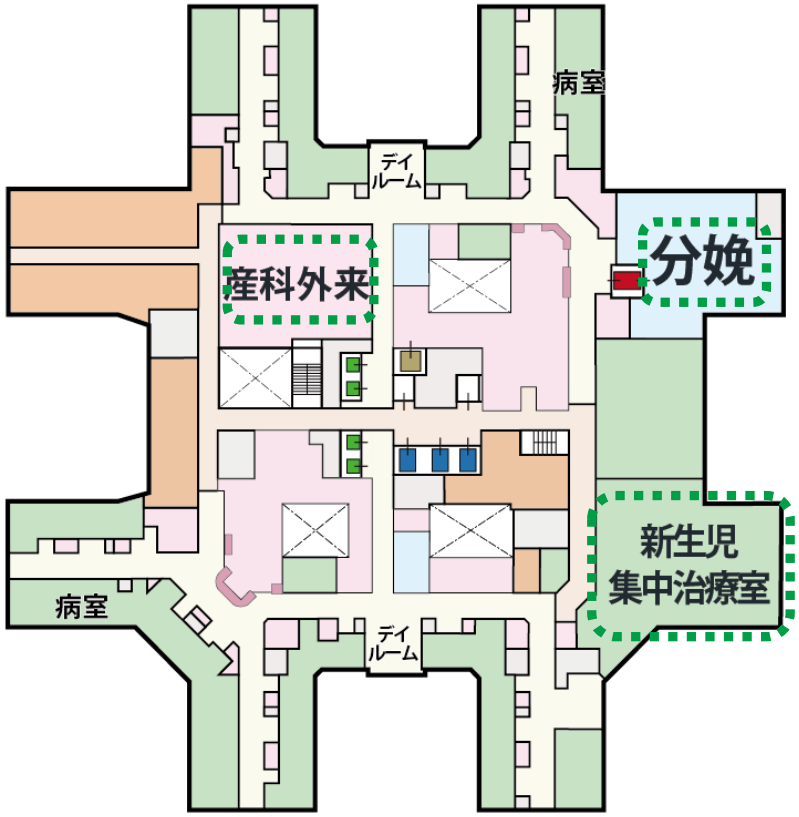
手術エリアと併せて、集中治療室を隣接配置、
高度な医療の綿密な連携を可能にします。



8-3 施設計画

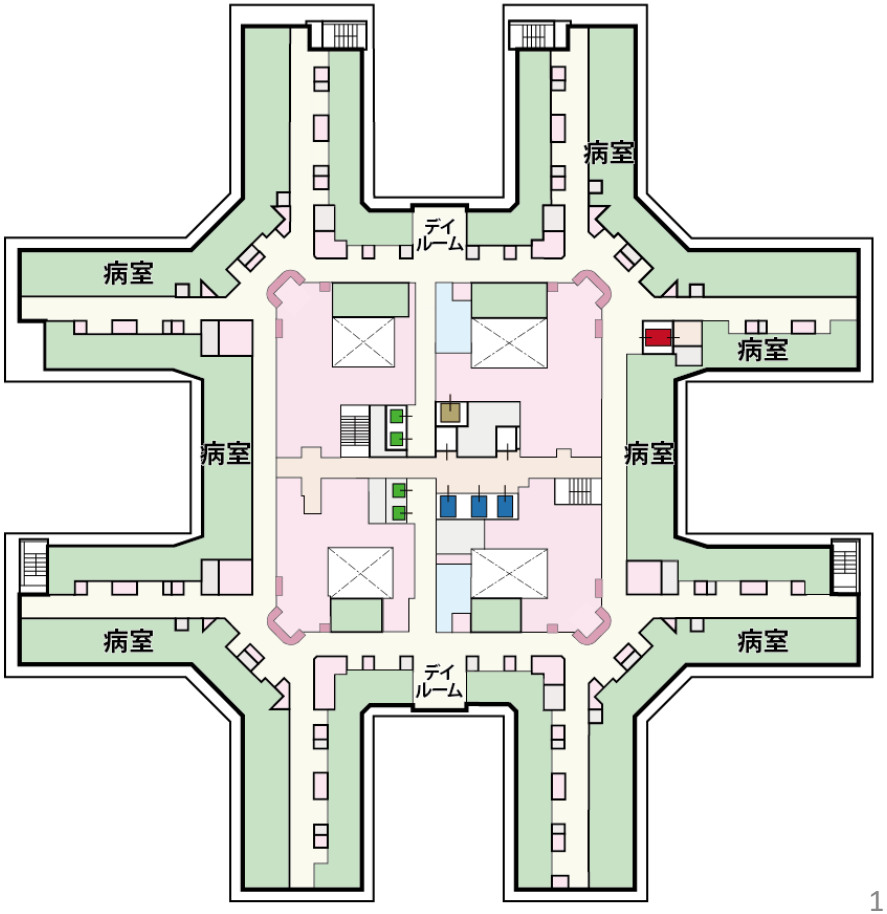
4階

産科外来、病棟と新生児集中治療室を配置し、
分娩から新生児の一体的な医療を実現します。



5・6階

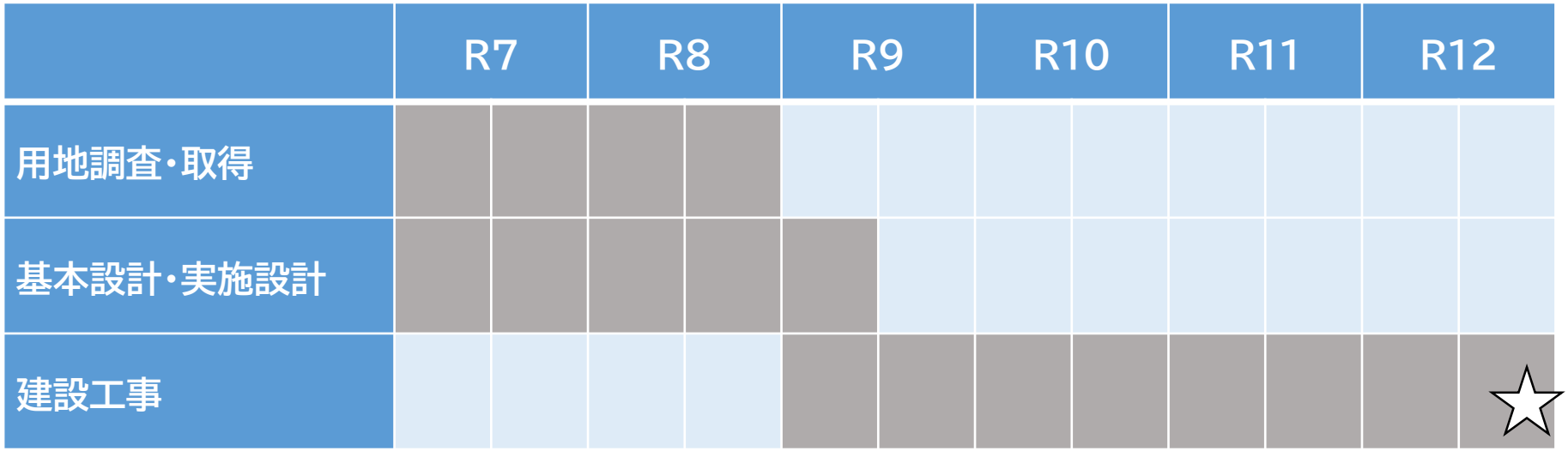
病棟を配置します。快適な療養環境かつ
感染症にも配慮した**全室個室**の設計です。



東
北

9 スケジュール

今後の整備スケジュールについては下表のとおりとし、令和12年度中の開院を目指します。



※現時点で見込まれるスケジュールであり、変更となる場合があります。　　☆印＝開院

10 新病院概算整備費

（1） 新病院概算整備費

項目	内容	概算整備費
① 設計監理費	設計・工事監理	13億円
② 建設工事費等	建築工事、外構工事、附帯施設、造成工事、道路改良工事	459億円
③ 医療機器等整備費	医療機器、情報システム、備品	96億円
④ その他	移転費、コンサル経費など	9億円
合 計		577億円

※ 利息（183億円）を含む総事業費は760億円となる。また、上記には、用地取得費を含んでいない。
※ 「③医療機器等整備費」の内訳は、医療機器整備費63億円、情報システム整備費29億円、備品費4億円となっている。
※ 新病院整備費については、進捗に応じて見直す場合がある。

（2） 財政負担

項目	合計	内訳			
		三田市		済生会	県補助金
		市税負担	交付税措置		
新病院整備費	577億円	186億円	186億円	179億円	26億円
（参考）基本計画策定時	521億円	198億円	142億円	162億円	19億円

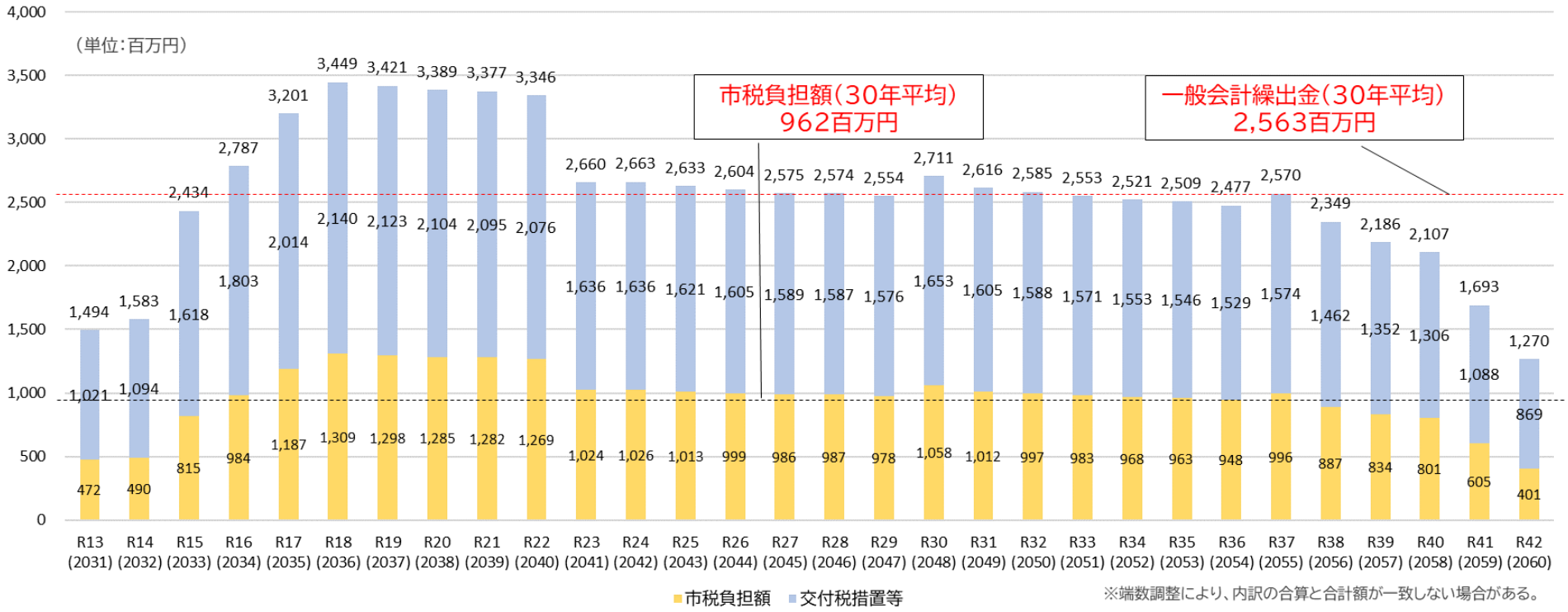
※ 上記表には利息、用地取得にかかる費用及び神戸市からの支援額は含まない。
※ 交付税措置及び県補助金については、国及び県の現行制度が継続された場合を想定して試算している。
※ 国による普通交付税措置は、施設整備費（うち建物は単価**85万円/㎡まで** ※基本計画策定時は59万円/㎡）、医療機器整備費の40%を想定する。

10-2 新病院概算整備費

（3） 基本計画策定時との比較

項　目	基本設計策定時（令和8年4月）	基本計画策定時（令和7年2月）	差	主な増減理由
	①	②	③(①−②)	
① 設計監理費	13億円	16億円	△3億円	・設計業務の実績見込みによる減
② 建設工事費等	459億円	405億円	＋54億円	・建築単価見直しによる増 （88万円/㎡→100万円/㎡）
③ 医療機器等整備費	96億円	92億円	＋4億円	・物価高騰反映による増
④ その他	9億円	8億円	＋1億円	・移転費などの見直しによる増
合計　A	577億円	521億円	＋56億円	
利息　B	183億円	140億円	＋43億円	・金利上昇による増
総整備費（A＋B）	760億円	661億円	＋99億円	

11 一般会計負担の推計



※端数調整により、内訳の合算と合計額が一致しない場合がある。

【参考】 一般会計繰出金の開院後30年（2031～2060）平均

		基本設計策定時（令和8年4月）	基本計画策定時（令和7年2月）	差	【参考】現市民病院（R元～R6 6年平均）
		①	②	③（①－②）	
一般会計繰出金		2,563百万円/年	2,205百万円/年	＋358百万円/年	1,750百万円/年
内訳	（理論上の）交付税措置等	1,601百万円/年	1,264百万円/年	＋337百万円/年	729百万円/年
内訳	**市税負担額（上記除く）**	**962百万円/年**	**941百万円/年**	**＋21百万円/年**	**1,021百万円/年**